

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	箕輪町立箕輪中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	7	7	2	23	44
生徒数	250	270	268	6	794	

研究の概要

1. 研究主題

本校の生徒や地域の環境に即し、生徒の力を最大限に導き出すことのできる学びの場を構成していきたいと考えている。そこで、個々の学びの姿を大切にした教科学習と、本質に出会う総合的な学習の時間に支えられた学びを創造していくことで、心身の調和のとれた発達や個性の伸長を図り、生きてはたらく力をつけていきたい。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

数学少人数学習 (実証授業は2年生)

全学年での実施。英語科で3学年での実施を予定しているため、実証授業は2学年で行う。  
英語少人数学習 (実証授業は3年生)

16年度より、2学年にも少人数学習の幅を広げていく。そこで実証授業は3学年で行う。  
総合的な学習の時間 (実証授業は1・2年生)

研究を始めて5年目であり、全学年・学級で実践している。実証授業は時期的なものを考慮して、1学年か2学年で行う。

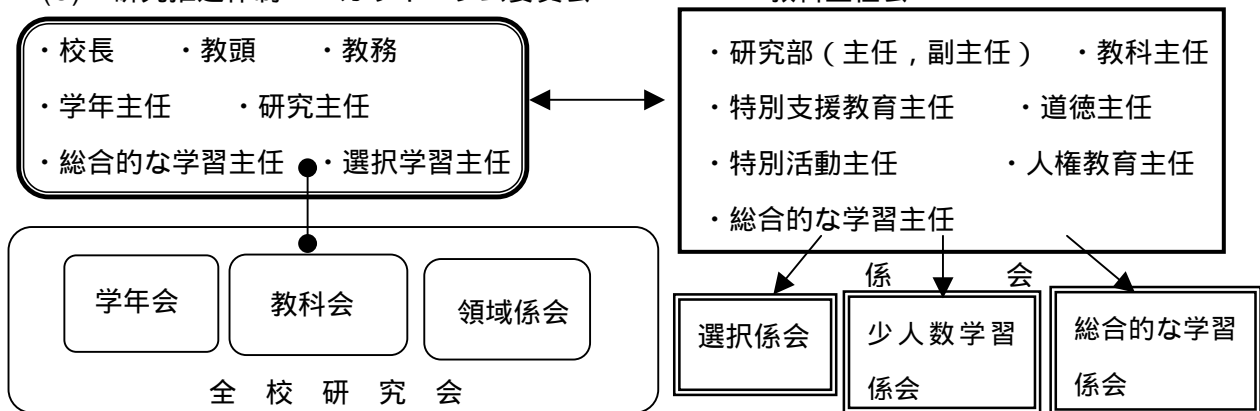
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究のテーマ <b>自他のよさや可能性の発見</b></p> <p>～個々の力を一層伸ばし分かる授業・楽しい授業をめざして～</p> <p>研究の見通し</p> <p>自分の経験や既習の学び、現在の体験を基盤に、教科学習と総合的な学習でのつける力の一体化から、統合された学力を育成していく。</p> <p>研究の内容</p> <p>学力の見極めと生きる力の分析。教科・領域・総合的な学習の時間のカリキュラム作り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つける力 (基礎・基本の力と学ぶ力の位置づけ) ・横断的,縦断的なカリキュラム</li> <li>・具体的な手だての例 ・各教科と総合的な学習の時間とのクロスカリキュラム</li> </ul> <p>生徒の追究の姿にスポットを当てた長期的な幅での授業構成や評価。 = 評価規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科としてどんな力が付くことを期待していくのか。</li> <li>2. その教科で基礎・基本の力は何と考えているのか。</li> </ol>
--------	--

	<p>3. 評価と目標を達成できない生徒への支援体制</p> <p>4. 総合的な学習の時間・選択学習・領域学習との関連の中でつけていきたい力。 教科学習・総合的な学習の時間・選択学習の連係</p>
--	---

平成16年度	<p>研究のテーマ <b>自他のよさや可能性の発見</b></p> <p>～個々の力を一層伸ばし分かる授業・楽しい授業をめざして～</p> <p>研究の見通し</p> <p>「解けると気持ちがよい・他の問題も解いて見たいと思うようになってきた」といった生徒の気持ちを大切に、『解けた・できた・分かった』とつぶやく生徒の育成を願い、研究を進めている。そこで、教科と、総合的な学習の時間が生み出す力に焦点を当てた指導の工夫から、学力の定着と評価を通して支援の方法に迫り、生徒にわかる喜びを味わせていきたい。</p> <p>実践の方向 15年度を踏襲し、2人のカウンセラーに次の観点で指導していただく。</p> <p style="text-align: center;"><b>愛知教育大学志水廣先生から「学力の見極めと生きる力の定着の方法」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つける力の分析と評価・支援 = 育てたい生徒像と評価規準</li> <li>○基礎基本の力を保障し解ける喜びを持たせ、意欲的に学習に取り組む授業構成の工夫。</li> <li>○つけ法・復唱法を通して、支援方法と教師の出、個々の生徒の生かし方を学ぶ。</li> <li>○自信を持って学習していくために教え込む・考えさせる場面の教科カリキュラム構成 <b>日本女子大学 吉崎静夫先生から「総合的な学習の時間とクロスカリキュラム」</b></li> <li>○自分の経験や既習の学び現在の体験を基盤に、総合的な学習・教科学習・選択学習・領域学習の一体化を図る。 <b>クロスカリキュラムの構成</b></li> <li>○生徒を育てる評価を通して学ぶ力を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自ら学び、自ら考える力を育てる視点で = 自己表現力の伸長を目指して</li> <li>(2) 願いや夢を実現し意欲化していく視点で = クリエイティブタイム</li> <li>(3) 心豊かな人間性を育てる視点で = ヒューマンタイム</li> </ul> </li> <li>○選択学習の位置づけと運営</li> </ul> <p>上記のような思いや願いを、自信をもって発信できる生徒を育てる。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制 **カリキュラム委員会**



本校の通常の研究組織で、フロンティアスクールの実践への対応をする。

本校独自の教育課程を審議する。主にハード面

教科での運営や研究推進・つける力や評価の実践。主にソフト面

で決まった方向での実践機関

～ の立場で全校で取り組んでいく研修の場

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 児童生徒の学習状態の把握

生徒への願いは、『教わる者から、自ら学ぶ者』への成長である。つまり学習を通し自己教育力を育てていくことにある。そこで「〇〇って楽しいな」とつぶやける生徒をより多く育てていきたい。その教科の特色や良さに接し、基礎・基本の力を育成することで解けた楽しさを味わわせていきたい。

(1)そこで教科カリキュラムを作成するに当たり、生徒の意識調査をした。

#### 生徒の語る”数学の楽しいとき”（嫌なときは省略）

・問題が解けたとき ・わかったとき・理解できたとき ・計算がすらすら解けたとき ・答えがでて楽しい・苦労して解けた時うれしい ・問題を解いているとき ・理解できたとき ・難しい問題が解けたとき ・答えが一つハッキリ出て気持ちよい ・知らない事が分るとヤッタという気がしてうれしくなる ・褒められたとき ・いろいろな解き方があって楽しい。

のデータから、習熟度別コース学習に対応したカリキュラムと評価規準を教科毎作成。

(2)カリキュラムと評価規準に即した授業改善

(3)教育課程の自己評価 【生徒の学びの姿から、次の学びの方向を決めだしていく】

母集団（数学1学年240名・2学年251名・3学年237名 英語3学年243名）

	よく当てはまる					どちらかという当てはまる					どちらかという当てはまらない					全く当てはまらない				
	1年	2年	3年	英語	合計	1年	2年	3年	英語	合計	1年	2年	3年	英語	合計	1年	2年	3年	英語	合計
1 勉強の内容がよくわかる	94	64	63	41	262	126	141	130	141	538	19	41	42	51	153	1	5	2	10	18
2 進んで手を挙げている先生や友だちの話をよく聞いている	29	27	34	29	119	94	65	49	49	257	105	88	99	98	390	12	72	55	67	206
3 自分の力で学習問題を解決しようとしている	96	52	73	74	295	133	138	129	125	525	8	56	33	40	137	2	5	2	4	13
4 わからないことなど先生に聞きやすい	85	73	73	60	291	124	123	123	123	493	25	47	41	53	166	4	9	0	7	20
5 コース学習でその教科が好き	31	61	73	51	216	109	97	101	86	393	76	72	57	87	292	21	20	8	19	68
6 進んだコースは自分に合っている	51	43	54	46	194	118	111	118	100	447	53	71	57	67	248	9	26	8	30	73
7 わからないことは進んで質問している	117	95	83	82	377	106	119	115	120	460	10	26	32	36	104	2	4	1	5	12
8 難しい問題にも進んで挑戦している	27	42	52	30	151	99	105	80	89	373	98	81	87	101	367	16	23	18	23	80
9 テストでできなかった問題を後で確かめている	40	30	48	41	159	132	95	100	88	415	58	102	77	95	332	10	24	12	19	65
10 興味関心のあることは進んで調べている	66	55	65	61	247	110	95	97	98	400	52	74	65	64	255	12	27	10	20	69
11 学習用具は忘れずに持ってきている	46	31	44	62	183	110	96	113	96	415	79	102	73	73	327	4	22	7	12	45
12 宿題は忘れずにやる	149	136	134	141	560	72	87	81	76	316	16	24	19	22	81	3	4	3	4	14
13 宿題がなくても進んで予習復習する	134	91	99	102	426	71	83	81	70	305	28	56	47	53	184	7	20	10	18	55
14	28	13	33	39	113	98	53	92	80	323	86	115	86	83	370	28	70	25	41	164
	993	813	928	859		1502	1408	1409	1341		713	955	815	923		131	331	161	279	

○学習の内容がわかる（よく・どちらかという）は、82.4%と比較的学習の環境が整ってきている。

○進んだコースは自分に合っている。よく38.8%どちらかという47.4%併せて86.2%は習熟度別コース学習がそれなりの効果を上げていると思われる。

○コース学習で教科が好きになってきている（どちらかというを合わせて）66%も意欲化の意味で大切であり、解るようになってきた嬉しさや喜びの反映と思われる。

#### つける力の伸びの実感（生徒の声）

志水先生の つけ法の実践で、数学が苦手だったMさんから次のようなつぶやきが語られてきた。

今日の数学の時間には、すごい発展がありました。学習プリントをやっていたのですが、私は、応用問題をいつもなら「わからんよー！！」と騒いでいるのですが、今日はちがいます。自分の予想の の部分を見て、一生懸命に取り組みました。「で...出来た！」先生に見てもらおうと「よし次！」と言われ がつきました。私はこの言葉が、すごくうれしく感じました。普段でもできるといわれるのですが、今日はちがいました。そして、次の問題も同じ方法で、自分で解けちゃいました。今日は自分にもOKです。

また、初めてのクリエイティブタイム「クローズアップ箕輪」を体験した1年のS君からは、

“箕輪の達人”を求めてのクローズアップ箕輪の調査活動で、「製作所いきました」精密加工の技術を中心に、僕には本当に興味深いことだらけでした。特に、世界に製作所しかない特許があって、ここでしかできない物があるなんて本当にすごい。また一つ箕輪の良さが発見できました。

との声がよせられ、自分の学びの良さ友と学ぶ良さが語られていた。

## 2. 今後の課題

評価の方向と目標値に達しない生徒への支援の方向。

教科学習・選択学習・総合的な学習のクロスカリキュラム。

### 学力把握のための学校としての取組

生徒の実態や定着の様子を探り、指導の方向を設定していく自己評価アンケートの実施 5月  
絶対評価プリントを用いて、単元毎学びの姿を集計していく。

コース選択用の自己診断テスト及び教科毎の自己診断。9月

1時間の中で2回の評価の機会をとり学びの姿の累積。

総合的な学習の時間のポートフォリオ的な学習記録分析（活動毎）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

\*平成16年度実証授業予定

（6月4日総合的な学習の時間・7月2日数学少人数学習・7月8日英語少人数学習・9月10日総合的な学習の時間・11月16日学力向上フロンティア発表会）

\*PTA説明会（4月30日・7月10日）

\*地域発信リーフレットの作成。地域の理解や小・中・高の連携に役立てる。

\*参観依頼への対応（京都府・千葉県・静岡県・山梨県などの先生方）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他（総合的な学習の時間は全職員対応）			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他（総合的な学習の時間）		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		